

1. 決まり字「なげき」の歌の下のはどれでしょう。
ア みをつくしてや 戀ひわたるべき イ 龍田の川の 錦なりけり
ウ いかに久しき ものとかは知る エ 山の奥にも 鹿ぞなくなる
2. 決まり字「なげけ」の歌の下のはどれでしょう。
ア わが衣手は 露にぬれつつ イ かこち顔なる わが涙かな
ウ 焼くや藻塩の 身もこがれつつ エ まつとし聞かば 今帰り来む
3. 「心あてに 折らばや折らむ 初霜の」 この上のは続く下のはどれでしょう。
ア 花ぞ昔の 香にほひける イ 置きまどはせる 白菊の花
ウ あしのまろやに 秋風ぞ吹く エ 濡れにぞ濡れし 色はかはらず
4. 「百敷や 古き軒端の しのぶにも なほあまりある 昔なりけり」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 元良親王 イ 源重之
ウ 順徳院 エ 菅家
5. 決まり字「よのなかよ」の歌の下のはどれでしょう。
ア みをつくしてや 戀ひわたるべき イ 山の奥にも 鹿ぞなくなる
ウ 海士の小舟の 綱手かなしも エ 雲居にまがふ 沖つ白浪
6. 「忍ぶれど 色に出にけり 我が戀は」 この上のは続く下のはどれでしょう。
ア つらぬきとめぬ 玉ぞ散りける イ ものや思ふと 人の問ふまで
ウ 雲がくれにし 夜半の月かな エ 流れもあへぬ 紅葉なりけり
7. 「廻り逢ひて 見しやそれとも わかぬまに 雲がくれにし 夜半の月かな」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 皇嘉門院別当 イ 光孝天皇
ウ 紫式部 エ 藤原清輔朝臣
8. 「吹くからに 秋の草木の しをるれば」 この上のは続く下のはどれでしょう。
ア むべ山風を あらしといふらむ イ 人にはつげよ あまの釣舟
ウ 流れもあへぬ 紅葉なりけり エ 濡れにぞ濡れし 色はかはらず
9. 「これや此の 行くも帰るも 別かれては 知るも知らぬも 逢坂の関」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 祐子内親王家紀伊 イ 源宗行朝臣
ウ 伊勢 エ 蝉丸
10. 決まり字「ながか」の歌の下のはどれでしょう。
ア 人にはつげよ あまの釣舟 イ 身をつくしても 逢はむとぞ思ふ
ウ みだれて今朝は ものをこそ思へ エ わが身ひとつの 秋にはあらねど

1. 決まり字「ここに」の歌の下句はどれでしょう。
ア いくよ寝覚めぬ 須磨の関守 イ 長くもがなと思ひけるかな
ウ はげしかれとは 祈らぬものを エ 戀しかるべき 夜半の月かな
2. 決まり字「わたのはらこ」の歌の下句はどれでしょう。
ア かこち顔なる わが涙かな イ むべ山風を あらしといふらむ
ウ 山の奥にも 鹿ぞなくなる エ 雲居にまがふ 沖つ白浪
3. 決まり字「かぜお」の歌の下句はどれでしょう。
ア 身をつくしても 逢はむとぞ思ふ イ 砕けてものを 思ふ頃かな
ウ 今一たびの 逢ふこともがな エ 憂きに堪へぬは 涙なりけり
4. 「淡路島 かよふ千鳥の 鳴く声に いくよ寝覚めぬ 須磨の関守」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 中納言兼輔 イ 素性法師
ウ 源兼昌 エ 参議等
5. 「難波江の あしのかりねの 一夜ゆゑ」 この上の句に続く下句はどれでしょう。
ア しづごころなく 花の散るらむ イ つらぬきとめぬ 玉ぞ散りける
ウ 忍ぶることの 弱りもぞする エ みをつくしてや 戀ひわたるべき
6. 「みかの原 わきて流るる 泉川」 この上の句に続く下句はどれでしょう。
ア われても末に 逢はむとぞ思ふ イ さしも知らじな もゆる思ひを
ウ 晝は消えつつ ものをこそ思へ エ いつみきとてか 戀しかるらむ
7. 「今来むと いひしばかりに 長月の」 この上の句に続く下句はどれでしょう。
ア ものや思ふと 人の問ふまで イ 夢の通ひ路 人目よくらむ
ウ しろきを見れば 夜ぞふけにける エ 有明の月を 待ち出でつるかな
8. 決まり字「あらざ」の歌の下句はどれでしょう。
ア なほあまりある 昔なりけり イ みかさの山に 出でし月かも
ウ 今一たびの 逢ふこともがな エ をとめの姿 しばし留めむ
9. 「わが袖は 汐干に見えぬ 沖の石の」 この上の句に続く下句はどれでしょう。
ア 人こそ知らね 乾く間もなし イ 我が身世にふる ながめせしまに
ウ 有明の月を 待ち出でつるかな エ わが身ひとつの 秋にはあらねど
10. 「久方の 光のどけき 春の日に」 この上の句に続く下句はどれでしょう。
ア ながながし夜を ひとりかもねむ イ みだれて今朝は ものをこそ思へ
ウ いでそよ人を 忘れやはする エ しづごころなく 花の散るらむ

1. 「恨み侘びほさぬ袖だにあるものを」 この上の句に続く下の句はどれでしょう。
ア 故郷寒く衣うつなり
ウ もれ出づる月の影のさやけさ
イ 戀に朽ちなむ名こそ惜しけれ
エ なほあまりある昔なりけり
2. 「陸奥のしのぶもぢずり 誰故に みだれ初めにし 我ならなくに」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 源重之
ウ 祐子内親王家紀伊
イ 紫式部
エ 河原左大臣
3. 「これや此の行くも帰るも 別かれては 知るも知らぬも 逢坂の関」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 権中納言定頼
ウ 藤原義孝
イ 大中臣能宣朝臣
エ 蟬丸
4. 「おほけなく うき世の民に おほふかな」 この上の句に続く下の句はどれでしょう。
ア 我が立つ袖に 墨染の袖
ウ むべ山風を あらしといふらむ
イ 海士の小舟の 綱手かなしも
エ ただ有明の 月ぞ残れる
5. 「夕されば 門田の稲葉 おとづれて」 この上の句に続く下の句はどれでしょう。
ア をとめの姿 しばし留めむ
ウ 我が立つ袖に 墨染の袖
イ 流れもあへぬ 紅葉なりけり
エ あしのまろやに 秋風ぞ吹く
6. 決まり字「かく」の歌の下句はどれでしょう。
ア 人にはつげよ あまの釣舟
ウ あはれ今年の 秋も去ぬめり
イ ねやのひまさへ つれなかりけり
エ さしも知らじな もゆる思ひを
7. 「哀れとも いふべき人は おもほえて 身のいたづらに なりぬべきかな」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 式子内親王
ウ 紀貫之
イ 謙徳公
エ 貞信公
8. 「これや此の行くも帰るも 別かれては」 この上の句に続く下の句はどれでしょう。
ア 戀に朽ちなむ名こそ惜しけれ
ウ 人こそ知らね 乾く間もなし
イ 海士の小舟の 綱手かなしも
エ 知るも知らぬも 逢坂の関
9. 「かくとだに えやはいぶきの さしも草 さしも知らじな もゆる思ひを」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 赤染衛門
ウ 権中納言敦忠
イ 藤原実方朝臣
エ 能因法師
10. 「君がため 春の野に出でて 若菜つむ わが衣手に 雪は降りつつ」 この歌の作者はだれでしょう。
ア 陽成院
ウ 順徳院
イ 光孝天皇
エ 二条院讃岐

答え（百人一首クイズ・100首すべて）

1回目

1. ウ いかに久しき ものとかは知る
2. イ かこち顔なる わが涙かな
3. イ 置きまどはせる 白菊の花
4. ウ 順徳院
5. イ 山の奥にも 鹿ぞなくなる
6. イ ものや思ふと 人の問ふまで
7. ウ 紫式部
8. ア むべ山風を あらしといふらむ
9. エ 蟬丸
10. ウ みだれて今朝は ものをこそ思へ

2回目

1. エ 戀しかるべき 夜半の月かな
2. エ 雲居にまがふ 沖つ白浪
3. イ 砕けてものを 思ふ頃かな
4. ウ 源兼昌
5. エ みをつくしてや 戀ひわたるべき
6. エ いつみきとてか 戀しかるらむ
7. エ 有明の月を 待ち出でつるかな
8. ウ 今一たびの 逢ふこともがな
9. ア 人こそ知らね 乾く間もなし
10. エ しづごころなく 花の散るらむ

3回目

1. イ 戀に朽ちなむ 名こそ惜しけれ
2. エ 河原左大臣
3. エ 蟬丸
4. ア 我が立つ杣に 墨染の袖
5. エ あしのまろやに 秋風ぞ吹く
6. エ さしも知らじな もゆる思ひを
7. イ 謙徳公
8. エ 知るも知らぬも 逢坂の関
9. イ 藤原実方朝臣
10. イ 光孝天皇